

A vibrant blue sky with a bright sunburst effect and a wooden boardwalk leading to the ocean.

2008

**SENKO**

**CSR報告書**

環境・安全・社会への取り組み

	02	ごあいさつ
経営とCSR	03	<b>センコーの事業概要</b> センコーの主力3事業／会社概要／主要サービス／国内拠点／海外拠点／センコーグループ事業データ
	05	<b>企業目標とCSR方針</b> 社会から信頼されるセンコーであるために－／社是／中期経営計画／「CSR経営」推進体制を強化／CSR推進委員会を新たに設置
	07	<b>コーポレート・ガバナンスとコンプライアンスについて</b> コーポレート・ガバナンスの考え方と体制／コンプライアンス経営／内部統制への取り組み／危機管理体制の構築／個人情報の保護
特集	09	<b>特集1 モーダルシフトの積極的推進</b>
	11	<b>特集2 クレフィール湖東での安全教育活動</b>
	13	<b>特集3 廃棄物・リサイクルガバナンス構築への取り組み</b>
環境活動報告	14	<b>環境基本方針</b> 環境との調和と共生を目指して／環境基本方針／環境推進体制／環境マネジメントシステムの推進
	15	<b>センコーの環境目標と成果</b> 第Ⅲ期「環境マスタープラン」／センコーの環境目標と成果
	16	<b>環境影響の全体像</b> CO <sub>2</sub> 排出状況について
	17	<b>地球温暖化防止への取り組み</b> CO <sub>2</sub> 排出量削減への取り組み
	18	<b>物流効率化への取り組み</b> グリーン物流パートナーシップへの取り組み／グリーン調達物流への参画
	19	<b>環境関連法令・規制への対応</b> 改正省エネ法への対応／自動車NOx・PM法及び関連法規、条例等への対応
	20	<b>環境認証取得の状況</b> ISO14001認証取得への取り組み／グリーン経営認証の推進
安全活動報告	21	<b>安全活動方針</b> 全てに優先する「安全」の維持に向けて
	22	<b>安全目標</b> 独自の「安全マネジメントシステム」を構築
	23	<b>安全管理への取り組み</b> 日常の安全活動の取り組み／安全関連法令の遵守対応
	24	<b>充実の安全教育</b> 「強い現場」・「卓越した現場」をつくる人材教育体制
	25	<b>安全活動の評価・達成状況</b> 「外部」からの評価・表彰／「社内」での技術・安全表彰
社会性報告	27	<b>働きやすい職場、豊かな地域社会を創造</b> 快適な職場環境の創出／「快適職場推進計画」の認定取得を継続／事業所内保育園の設置／カフェテリアの設置／健康管理活動の状況／大阪「男女いきいき・元気宣言」に登録
	29	<b>地域での社会貢献活動</b> 「こども交通安全教室」の開催／地域清掃活動を実施／クレフィール湖東での社会貢献活動

編集方針及び報告の範囲

センコーは、2005年度より3回「環境・安全報告書」を発行していましたが、今年度よりCSR推進委員会を新設し、従来より経営の重要課題と位置付けていました「環境保全」「交通安全対策」を含めたCSR活動の取組領域を明確にしたことを契機に「CSR報告書」として発行することにいたしました。

その編集方針は次の通りです。

- (1) センコーの特徴的なCSR活動を「特集」として紹介しています。
- (2) 記載対象範囲は、センコー株式会社ならびに一部グループ会社の活動も含みます。
- (3) 記載対象期間は、2007年4月～2008年3月までの事業活動ですが、一部2008年4月以降のものも掲載しています。
- (4) 環境の報告は、環境省の「環境報告ガイドライン(2007年版)」を参考にしております。

# Message

## ごあいさつ

2008年は、北海道洞爺湖サミットが7月に開催され、国内でも環境への関心がひととき高まっている感があり、温室効果ガス排出量の1990年比6%削減を日本が目標とする京都議定書の第一約束期間がスタートを切る年であり、温暖化対策が世界レベルで動き出します。

当社グループは、物流企業として公共の道路や地域の皆様の生活の場を事業活動で利用させていただいていることから、「環境保全」、「交通安全対策」が経営の最重要事項であるとの位置づけは従来から変わりません。昨今は、度重なる企業の不祥事により法令遵守や倫理的責任に対する社会からの要請が一段と高まりを見せております。

当社はCSRの基本的な考え方として「適法性と透明性を確保した倫理観の高い組織づくり」と「公共性の高い事業に携わっているとの認識を深め、本業を誠実に全うすることを通じて社会への貢献を追求する」との基本姿勢のもと、法令や倫理を重んじて社会や環境にまで責任を果たし、信頼され続ける企業経営を目指してきました。

今年度から「CSR活動」の取り組み領域を明確にするとともに、新たにCSR推進委員会を設置し、組織体制の整備を図り、これまでの「環境保全」、「交通安全対策」以外の領域も視野に入れたCSRの取り組みとしていく考えです。このような考えに基づいて、今回から報告書のタイトルも「環境・安全報告書」から「CSR報告書」に変更させていただきました。

これからも当社グループを取り巻くステークホルダーの皆様に評価をいただけるよう、法令遵守と企業倫理を徹底する中で事業活動を持続し、CSR活動の充実に努めて参ります。ぜひ皆様より、今回発行いたしました「CSR報告書2008」について、忌憚のないご意見、ご評価を頂戴し、今後の活動に活かしていきたいと存じますのでよろしくお願い申し上げます。



代表取締役社長  
CSR推進委員会委員長

**福田 泰久**

## 経営とCSR

## センコーの事業概要

## 流通ソリューション実現企業として、社会に貢献

SCM全般※の効率化を支援する“流通情報企業”として、センコーは、ITを駆使したシステムで最適な流通ソリューションを提案。国内シェア・トップクラスの住宅分野、石油化学・樹脂分野、また成長著しい流通ロジスティクス分野の物流事業を中心に、お客様の様々な課題を解決し社会の発展に寄与する事業活動を推進しています。

※SCM(サプライチェーン・マネジメント):ビジネスプロセスの全体最適を目指す戦略的な手法、情報システム

## センコーの主力3事業

01  
住宅  
分野物流のシステム化で  
トータルコスト削減に貢献

住宅資材の調達から、施工進捗に合わせたジャスト・イン・タイム配送まで、センコーは住宅メーカー様のSCMに関わる全てのニーズに対応。日本でもトップクラスの実績とノウハウを有しています。

02  
石油化学・  
樹脂分野蓄積したノウハウを活かし、  
物流効率化を支援

工場内物流から保管、エンドユーザー配送まで、創業以来培った豊富なノウハウで、多彩なシステム物流を展開しています。また物流アウトソーシング等、付加価値物流の提案を積極的に行っています。

03  
流通  
ロジスティクス  
分野流通SCMの事業領域を拡大し  
様々な課題に対応

全国に広がる物流センターネットワークの活用、ITを駆使した先進のシステム物流で、「量販・小売分野」の物流効率化を実現。また情報と商品の流れを一元管理し「アパレル分野」の物流を効率化。「医療・医薬・介護分野」においても、ベストなソリューションを提供しています。



## 会社概要 ※平成20年3月31日現在(勢力グループ合計)

商号	● センコー株式会社 (Senko Co.,Ltd.)
資本金	● 18,295,643,751円
創業	● 大正5年9月
設立	● 昭和21年7月
本社	● 〒531-6115 大阪市北区大淀中一丁目1番30号 TEL.06-6440-5155(代表)
代表者	● 代表取締役社長 福田 泰久
事業所	● 297箇所
グループ会社数	● 51社
従業員数	● 7,160名
貨物自動車	● 2,791台
支配船舶	● 18隻
倉庫	● 1,521,930平方メートル
URL	● <a href="http://www.senko.co.jp">http://www.senko.co.jp</a>

## 主要サービス







## 経営とCSR

## 企業目標とCSR方針

## 社会から信頼されるセンコーであるために—

CSR(企業の社会的責任)への社会の関心と期待が高まり、企業価値を評価するものにもなってきています。地域社会や顧客から支持される企業となるために、センコーでは「CSR経営」の体系を整え、誠実な事業運営を展開できる倫理観の高い組織づくり、地球環境保全や安全確保など物流業界の担うべき責任を全うする取り組みを推し進めています。

## 社是

確実

Sure

迅速

Swift

スマイル

Smile

流通事業の使命を自覚し、つねに最高の技術、最高の能力、最高のマナーをもって、顧客の立場に立って義務の完遂を図る。これが3Sの精神である。

## 中期経営計画

「流通情報企業の確立」を掲げた三カ年の中期経営計画を開始してから1年が経過しました。この計画では、主力3事業の収益拡大に努めるとともに、国際物流事業や商事事業などの重点強化事業、医療や生活関連など新規事業の育成・強化を図ります。

## 主力3事業

住宅物流事業

石化・樹脂物流事業

流通ロジスティクス事業

実物流の提供に加え、情報・商流を具備した流通SCMを提供し、顧客の流通業務を包括的に受託するビジネスパートナーへ。

## 重点強化事業

国際物流事業

商事事業

情報事業

3PLソリューション事業

流通情報企業を確立するために必要な事業機能として、主力3事業に匹敵する事業規模・事業体制へと育成・強化。

## 新規事業

医療関連事業

生活関連事業

人材サポート事業

輸送関連事業

次代の主力事業の創出と事業拡大を目指し、新たな売上基盤となる分野・事業領域へ進出。

## 流通情報企業とは?

企業や消費者に最大の価値を提供するために、生産から消費までサプライチェーン全般の効率化を目指す企業。流通全般に関する情報をリアルタイムで収集・分析し、ITを駆使したロジスティクス・システムと統合することで、最適な流通ソリューション(通信とコンピュータを活用し、問題解決を図る)を実現します。

## 「CSR経営」推進体制を強化

CSR経営を積極的に推進する組織として、2008年4月に「CSR推進委員会」を設置しました。センコーは、環境保全、交通安全対策を経営の最重要事項と位置づけていますが、当社が果たすべき社会的責任の領域を明確にすることで、活動の領域を今後さらに拡大し、ステークホルダーそれぞれに有益な実効性のある取り組みを実践していきます。

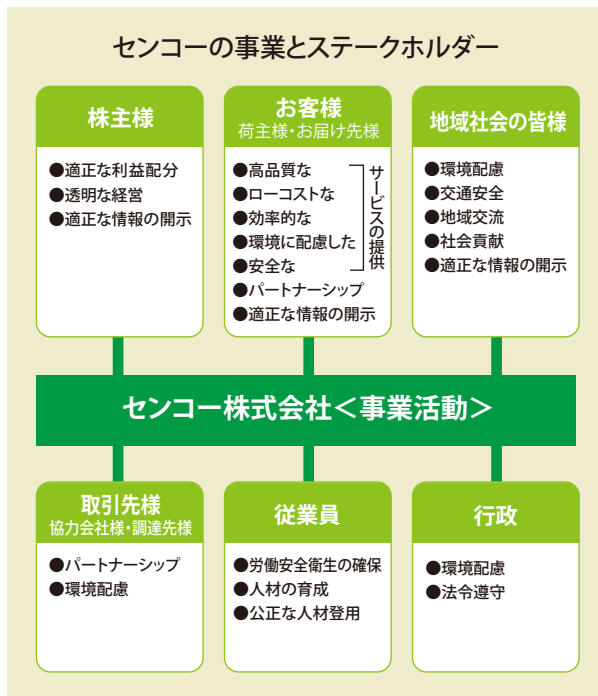
### ■CSRの基本的な考え方

センコーの事業の中核を成す「運輸業」は、高い公共的使命をもっています。それゆえ本業を通じて社会に貢献し、その責任を果たしていくことは企業永続の必須要件です。

センコーはそのことを真摯に受け止め、適法性と透明性を確保した倫理観の高い組織づくりを行っています。同時に全従業員が公共性の高い事業に携わっているとの認識を深め、本業を誠実に全うすることを通じて社会への貢献を追求していきます。

### ■取り組むべき重要課題

次の3つを「センコーグループCSR経営の柱」と位置づけ、社会との共生を図りながら持続的な発展を目指します。



### 『法令遵守企業』 に向けての取り組み

企業の継続的な事業運営、  
企業の存続に関わる適法性と  
透明性を重視した組織づくり

### 『環境対応企業』 に向けての取り組み

CO<sub>2</sub>排出企業の使命として、グリーン物流・調達など  
環境負荷を低減する活動の推進

特集企画P9・10・13をご覧ください

### 『安全重視企業』 に向けての取り組み

物流企業の責任として、またコア・コンピタンスとなる  
安全対策での品質差別化

特集企画P11・12をご覧ください

## CSR推進委員会を新たに設置

CSRの重要課題である「コンプライアンス」「企業倫理」「内部統制」「危機管理」「安全衛生」「環境推進」の委員会が設置され、具体的施策の立案と実行に取り組んでいます。CSR推進委員会は、企業CSR活動の年度活動方針や活動計画などを審議して決定し、また各委員会への指導・助言を行うなど、センコーのCSR経営全体をプロデュースする役割を担っています。

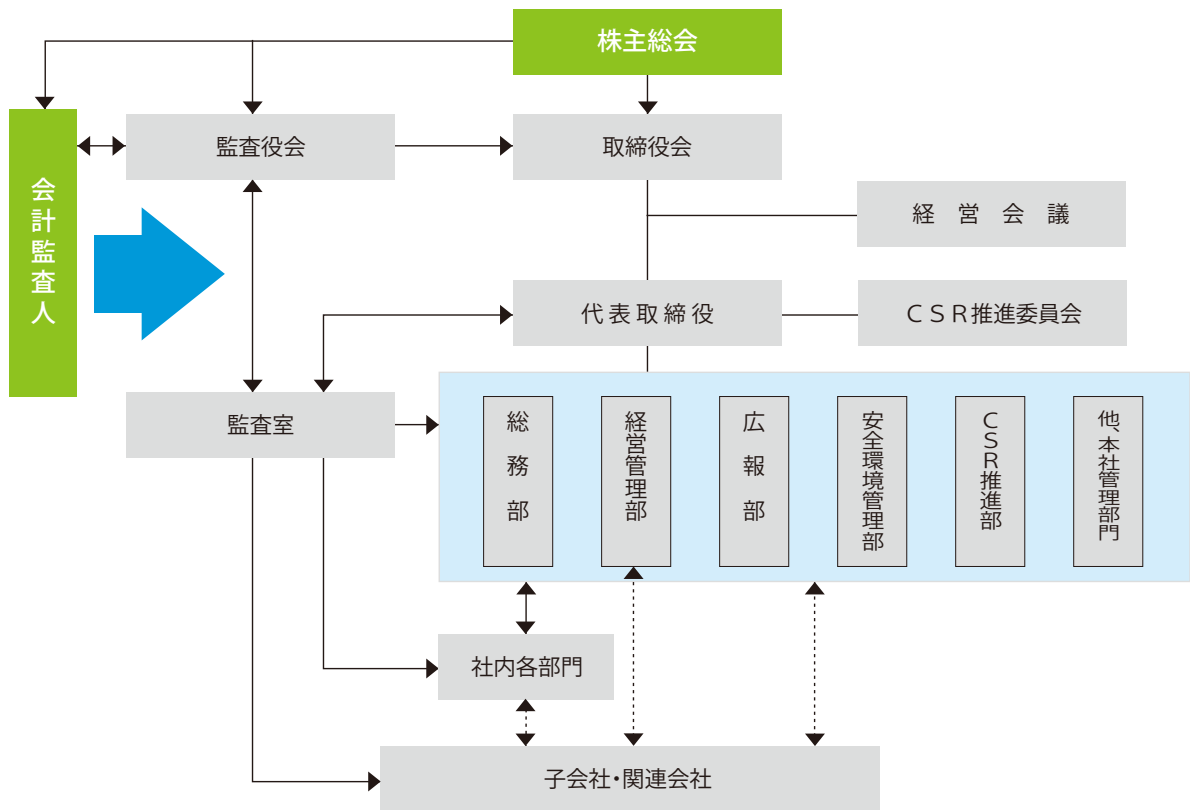
### ■「CSR経営」推進体制図



# コーポレート・ガバナンスと コンプライアンスについて

## コーポレート・ガバナンスの考え方と体制

センコーグループは、コーポレート・ガバナンスの充実が企業存立の基盤であり、経営の最重要課題の一つであるとの認識のもと、公共性の高い物流事業を行う企業として、コンプライアンス（法令遵守）に徹した企業行動に努めています。



### 【業務執行と監査・監督】

- ①取締役会は、毎月1回以上開催しており、法令で定められた事項の他、経営に関する重要事項を決定するとともに、業務執行を監督する機関として位置づけております。また、執行役員制度を導入し、取締役会の機能強化に向けた「経営の意思決定・監督」と「業務執行」の各機能の分離、双方の機能強化と責任の明確化を図るとともに、執行役員も出席する経営会議を設置し、業務執行状況の検証を行い、より透明度の高い経営の実現を図っております。
- ②監査役は、取締役会に出席し、取締役の業務執行を客観的立場から監視するとともに、内部監査部門である監査室及び会計監査人と連携し、子会社も含めたコンプライアンスの徹底を図るとともに、厳正な監査を実施しております。

## コンプライアンス経営

法令を遵守し、倫理にかなった事業活動を行うことは、企業が社会的責任を果たし、全てのステークホルダーから信頼を得る上で、最も基本的なことです。センコーグループは、誠実で公正な経営を旨とし、コンプライアンスの強化を推進しています。

## 内部統制への取り組み

センコーグループでは、2006年の会社法の改正や金融商品取引法（日本版 SOX法）の施行なども踏まえ、財務報告に係る内部統制システムの整備、強化に取り組んで参りました。2006年度より業務の標準文書化などの検討を行い、2008年度からは内部統制委員会を組織し全社一丸となって制度対応を推進しております。

また、お客様の重要な勘定科目の一つである「棚卸資産」に関連する受託業務については、『内部統制の整備及び運用状況報告書』の提出も検討しております。



## 危機管理体制の構築

当社が遭遇すると考えられる事件・事故・災害等は多岐にわたり、その発生頻度、経営に与える影響等も異なり、またその対応もそれぞれのリスクによって異なります。

従って、種々にわたる緊急事態に対して全社一丸となった対応を図るため、「緊急時対応マニュアル」を制定し、危機管理体制を構築しています。

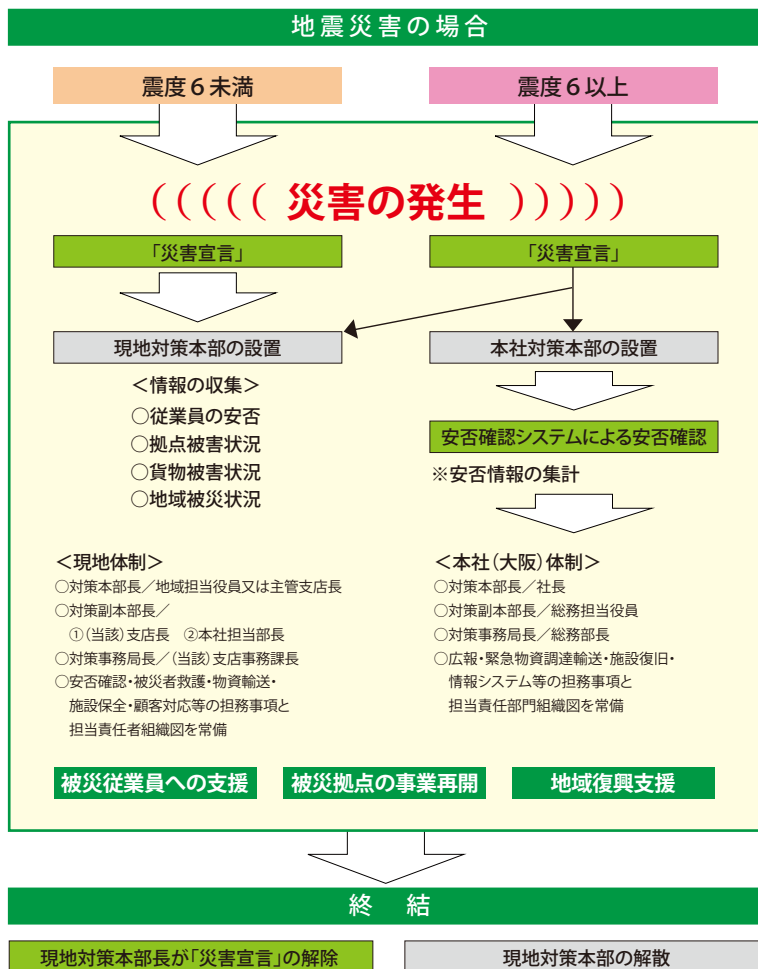
危機管理の取り組みの考え方として、万一緊急事態が発生した場合は、

- ①人命優先 ②物的損害(経営損失)の軽減
- ③業務の早期再開 ④社会的信用の維持
- ⑤地域社会への支援と貢献 の観点から対応策を検討し、実施します。

緊急事態発生時には、本社及び現地対策本部の設置基準に基づき、年度初めに、本部組織体制、担務事項、担当責任者を明確にして、対処します。

地震災害の場合は、震度6以上を基準に、本社及び現地対策本部が即時設置され、携帯電話メールにて従業員の安否確認を行うシステムにより①本人安否 ②家族安否 ③家屋被害状況 ④出社可能日 を確認します。

また、震度6未満の地震であっても、当社の支店、事業所が地震によって事業運営において機能しない場合も現地対策本部を立ち上げることにしております。



## TOPICS

### 災害時に備えた帰宅訓練を実施

大地震の発生など災害時に備えた帰宅訓練を、2007年春に実施しました。本社に勤務する社員約150人を対象に行われ、昼過ぎに大阪梅田の本社を出発し日没まで、自宅に向かって歩きました。

「どこまで歩けるか、どのルートがいいか」を社員一人ひとりが知っておくことは、緊急時の安全を確保することにもつながります。センコーでは、このような帰宅訓練を行う他に、緊急時に備えて、常にリュックや運動靴をオフィスに保管するよう社員に呼びかけています。



帰宅訓練風景

## 個人情報保護

センコーでは、集荷・配送の依頼など、様々な機会にお客様の個人情報をお預かりしています。

こうした情報を適切に扱い、保護することは企業の責務と考え、個人情報保護の徹底に努めています。

### ■ プライバシーマークの認証取得について

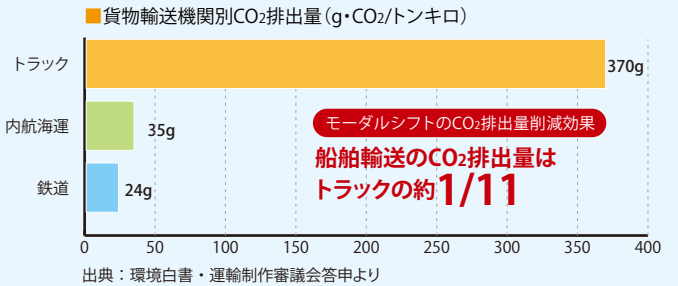
プライバシーマークとは、個人情報の取り扱いに関して適切な保護措置を講じていると認められた企業に対し、(財)日本情報処理開発協会が認定・付与するものです。2003年10月、センコーの関係会社で、流通情報システムの構築・運用を担当するセンコー情報システム(株)が「プライバシーマーク」を取得しました。

# 特集1

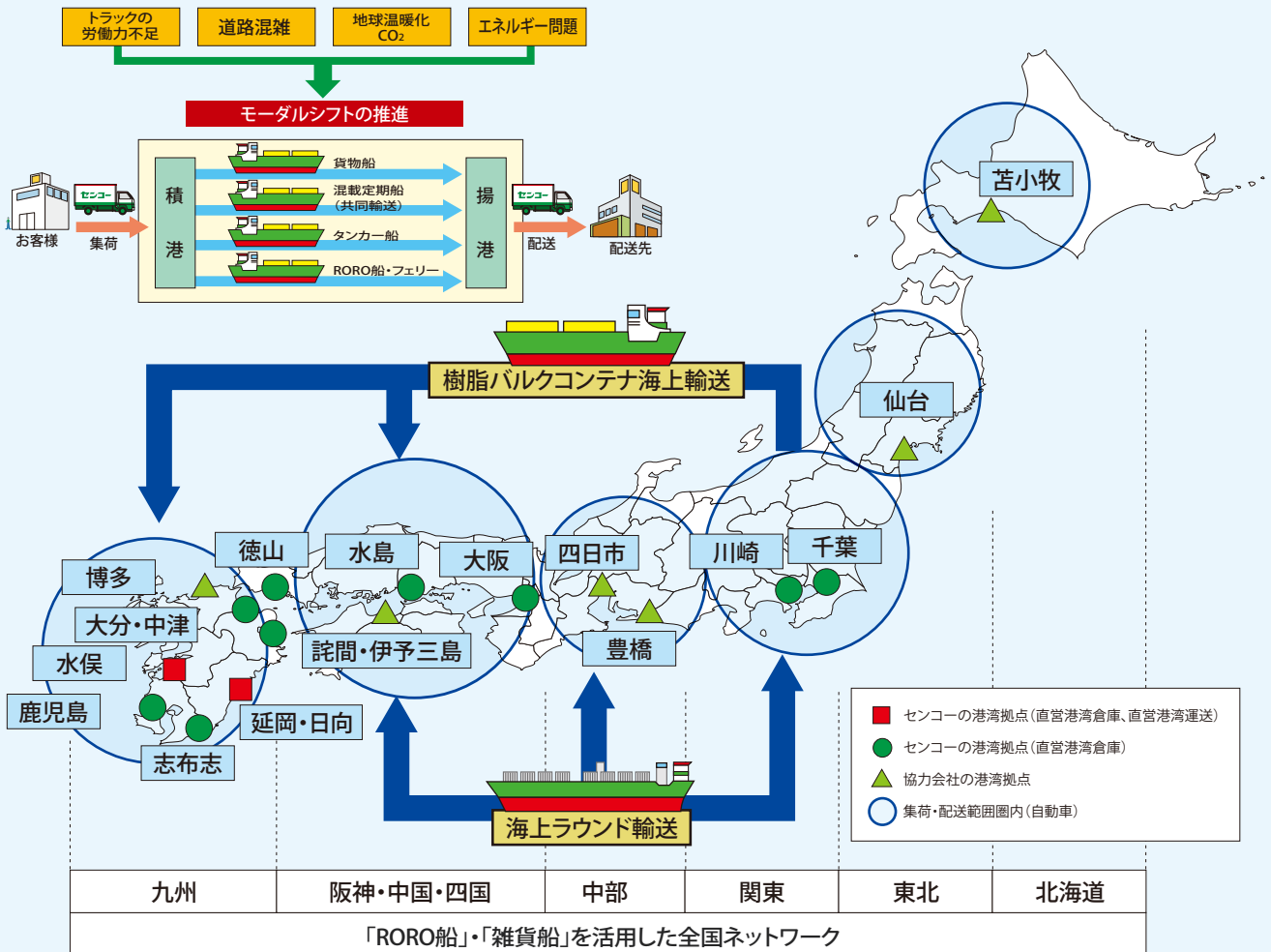
## モーダルシフトの積極的推進

### 船舶を利用した輸送形態へシフト 物流効率化で環境負荷を大幅に低減

より環境負荷の少ない輸送を目指して、センコーは、トラック中心の輸送から、鉄道・船舶を組み合わせた輸送形態に切り替えるモーダルシフトを推進しています。船舶による輸送は、エネルギー効率が高くCO<sub>2</sub>排出量を削減でき、また経済性にも優れた輸送として注目されていますが、この海上輸送においても業界を先駆する輸送システムを構築し、物流効率化の実現につなげています。



### 日本各地を結ぶ、港湾ネットワーク



#### ● 樹脂バルクコンテナ海上輸送

コンテナ充填からサイロへの投入まで、バルク専用コンテナを使った樹脂の一貫輸送を実施し、効率性と環境・安全性を重視した高品質な輸送を実現しています。

#### ● RORO船輸送

トレーラーのシャーシのみを船舶に搭載します。陸・船間の移動はシャーシのまま行うので荷傷みもありません。トラックの機敏性と船舶の大量・低廉性を組み合わせた輸送手段です。

#### ● 海上ラウンド輸送

定期航路により、着港した各地の港で実入りコンテナの揚げ荷役、空コンテナの積み荷役を繰り返し、最終的に出航地に戻るラウンド輸送のため、コストを削減、ITシステムとの連携でさらに効率化が期待できます。



RORO船から降りてくるトレーラー



荷役風景



扇駒丸

## CO<sub>2</sub>排出量が少なく安全な内航海上輸送

センコーは、貨物船やタンカーなどの自社船舶、定期傭船による多彩な海上輸送を展開しています。CO<sub>2</sub>排出量が少なく環境に優しいのが海上輸送ですが、さらに「専用コンテナを使用した海陸一貫輸送」や「海上ラウンド輸送」など、安全性や効率性を高める海上輸送システムを構築し、ユーザー様の高度化するニーズに応えています。

陸・海上を複合的に組み合わせるモーダルシフトを支えるのが、流通情報企業センコーのシステム構築力です。ドアツードアの海陸一貫輸送を効率的にオペレーションするために、ITを駆使した「コンテナ積載管理システム」や「船舶動静管理システム」を内航海運業界で初めて導入。ネットワークを介しタイムリーな情報を取得し、船舶に的確な運航指示をすることで、輸送のローコスト化と顧客サービスの向上を図っています。

## 高効率・高品質輸送を実現する大型専用コンテナ

輸送形態の転換に加えて、物流効率化に効果を発揮しているのが大型化への取り組みです。センコーが独自に開発したバルク専用コンテナは充填量が16t~20tと、従来のフレキシブルコンテナ(10t~12t)に比べ格段に多いため、納入頻度、配送回数を大幅に削減でき、燃料費の削減やCO<sub>2</sub>削減が図れます。

また通常のトラクタヘッドでコンテナ内の樹脂を直接サイロへ投入できる特殊シャーシ(特許出願中)も開発しています。このようにバルク輸送に適した様々な工夫を凝らし、異物混入防止など安全性の確保と作業効率の向上に努めています。



20フィートのバルク専用コンテナ。工場での直接充填後は外気に触れることなく、納入先の原料サイロへ直接投入できる

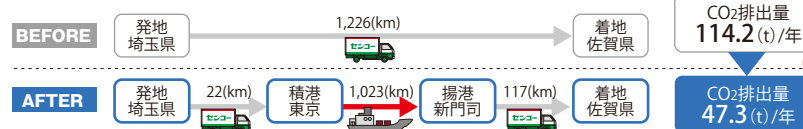
### ● 船舶を利用したモーダルシフト事例

#### CASE STUDY

#### 海陸一貫輸送で、輸送にかかるCO<sub>2</sub>排出量を削減

朝霞工場から九州SPへの幹線輸送を陸上輸送からRORO船海陸一貫輸送へ切り替え、また輸送単位を13tトラックから20tトレーラーへ大型化し輸送頻度を低減した。

【住宅物流・建材】 積水化学工業株式会社 環境ライフラインカンパニー 東京工場様  
輸送物量：年間960t(4~7月累計320t)



積水化学工業株式会社  
環境ライフラインカンパニー  
東京工場 工場長  
伊藤 重幸 様

#### モーダルシフトへの取り組みにおけるお客様の声

積水化学グループでは、エコロジーとエコノミーを両立させる環境経営を実現させるために、2010年度までに達成すべき目標を定めた環境中期ビジョン「環境トップランナープラン」を2005年4月に策定し、事業活動を行っています。CO<sub>2</sub>排出量の削減については2010年度10%削減(1990年度比)を目標に掲げておりますが、2007年度9.1%の削減を実現しており、目標の10%が視野に入ってきました。

生産現場であります当工場では、2005年度から毎年、前年比1%削減を目標に生産設備の省エネルギー化や小ロット対応などによる効率生産を中心にCO<sub>2</sub>排出量の削減に努めていますが、このモーダルシフトは、新たな切り口として、大いに期待しています。当工場で生産した建材製品は全国のお客様へ配送しておりますが、その全てをトラックでまかかっておりました。今回九州向けの一部を海上輸送にすることで1運行あたり約60%のCO<sub>2</sub>削減を実現しています。物流パートナーであるセンコー殿のご協力のもと、今後更にこのような取り組みを加速させていきたいと考えています。



## 特集2

## クレフィール湖東での安全教育活動

## 国内屈指の公開型交通安全研修施設で、安全運転・エコドライブ技術の向上を支援

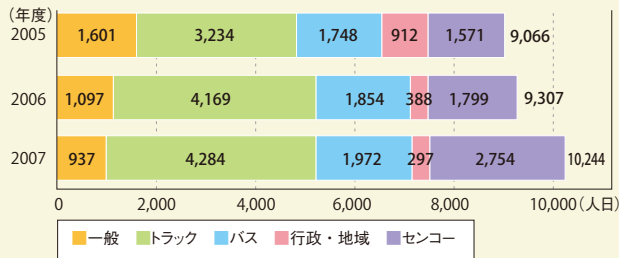
センコーは“安全重視企業”として、事業で培ってきた安全運転に対する情報やノウハウを広く一般社会に提供したいと考えています。その想いを具現化したのが、「クレフィール湖東」です。公開型の交通安全研修施設としては国内屈指の規模で、企業や団体、一般ドライバーの教育のための多彩な研修プログラムを構築・提供し、社会の交通安全向上や環境保全に貢献しています。

## 体験型の安全研修を、多数の企業・団体に提供

約66,000㎡の交通教育ゾーンには、基礎訓練エリア、回避訓練エリア、高速周回コース等が設けられ、公道で起こり得る危険を踏まえた様々な走行シーンを体験できます。また、お客様のニーズや実情に合わせた研修プログラムの作成も行っています。

これまでに4万人を超える研修生を外部からも受け入れ、研修後は事故件数が減少するなど嬉しい報告もいただいています。

## ■クレフィール交通研修 企業・団体別利用者実績



## ●安全運転研修

一般乗用車、貨物自動車、旅客自動車、さらに消防・救急緊急自動車ドライバー研修まで、クレフィール湖東は、車の構造的特性や業務特性に合わせた様々な安全運転研修を実施しています。走行訓練では、高い技術と指導力を持った専任インストラクターの直接指導を受けながら、危険の回避に必要な安全運転の技能と知識を実践的に学んでいきます。

## ●エコドライブ研修

省燃費で人と環境に優しい運転技術を体得するのが、エコドライブ研修です。使用燃料の計測ができる燃料流量計を搭載した研修車両を使用し、普段の走行と講習後の走行データを比較分析します。燃料を使わない惰力運転やエンジンブレーキの活用、急ブレーキや急加速をしないエコドライブを行うことが、積荷や乗客にも優しく、安全につながることを理解します。



宿泊・研修施設



## ●基本走行

通常の運転姿勢と基本姿勢での走行を比較。スラロームコースのS字をできるだけ早く走行する体験をすることで、基本姿勢がいかに大切かを理解します。



## ●安心・快適運転-1

旅客自動車研修で重視されるのが、乗客の安全確保です。「X-Yレコーダ」搭載車両で車内の揺れを計測しながら走行し、自己の日常の運転操作を確認します。



## ●安心・快適運転-2

バス停や踏切などが設けられた模擬コースを走行し、マイクアナウンスの仕方等についての指導も受けます。



## ●制動・反応

40km/h、60km/h、80km/hで走行し、濡れた路面で緊急ブレーキをかけ停止するまでの制動距離を確認。自らの反応の限界を知ること、どれくらいの車間距離が必要かを体得します。



## ●夜間検証

事故が多発する夜間での、対向車のライトによる蒸発現象や眩惑現象、色彩による視認性の違い等を検証。落下物等も置かれたコースを走行する中で、夜間の怖さと留意点を再確認します。





## VOICE お客様の声



阪急バス株式会社  
自動車事業部 安全管理課 主任  
中尾 行宏 様

当社は、「ひととまちに優しい阪急バス」という企業理念に基づき、お客様に「安全・安心・快適」を提供するとともに「安全を最優先した取り組み」を強化するため、約7年前よりクレフィール湖東を利用しています。私を含む指導者全員、また子会社社員を含め年間約180名が「旅客バス研修」に参加し、社内教育に役立っています。

中でも、効果が上がったものは入社1、2年目ドライバーを対象とした「新人ドライバー研修」で、業務や環境に「慣れ」が生じる時期に運転の基本を再指導することで、事故件数が大きく減少しました。

クレフィール湖東の特徴は、コースの規模を活かした濡れた路面でのフルブレーキ体験や運転における危険認知と回避反応など貴重な体験を通し、ドライバーが自らの限界に対する「気づき」を得られること。また当社バス持込による訓練対応などオリジナル研修メニュー実施への柔軟な対応、そしてインストラクターの皆さんが非常に礼節を重んじる点に、「プロ意識」を感じるところです。研修に参加したドライバーは顔つきが変わり、モチベーションが向上していると、実感しています。

今後は、新人からベテランまで段階的に教育できる体制を作っていきたいと考えています。これからもご支援のほど、よろしく申し上げます。

## TOPICS

### バイオディーゼル燃料を導入

2008年7月1日より、クレフィール湖東で、環境に優しいバイオディーゼル燃料の使用を開始することになりました。まず研修車両4台、送迎バス2台の6台に導入しています。燃料を精製するには原料として「使用済み食用油」が必要で、当社ではレストランで回収を行ってききましたが、社員の家庭でも協力してもらい、使用燃料の確保に努めています。



導入に際し作成したステッカーを貼った車両



レストランの廃食用油  
50ℓ/月を燃料精製に使用

## CDドライバーを育成する、業態別物流技能訓練も実施

※CD=Customer Delight

### 住宅物流技術研修

クレフィール湖東の物流教育ゾーンでは、センコーのコア事業の一つである住宅の物流技能研修を行い、住宅物流を革新するCDドライバーとCDリーダーを育成しています。

Customer Delight—お客様に感動を与える、工期短縮や環境に配慮した物流を実現するために、住宅に特化した物流ノウハウの訓練・技術伝承のシステムを構築。CDドライバーとなる29の認定項目を設けて、搬入の技能、作業工程の理解を深める訓練を行っています。またCDリーダーを目指す研修も2007年1月から実施しています。

この住宅物流に加えて、潤滑油物流、ローリーの搬入・輸送等のカリキュラムを開発し、業態別物流研修の領域を更に拡大させる予定です。

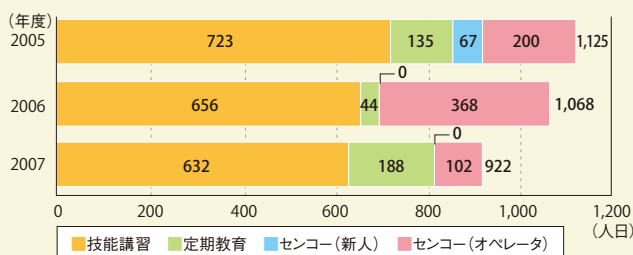


専門研修施設で施工現場のシミュレーション研修が行える

### フォークリフト運転技能講習

雨天でも講習が行えるフォークリフト講習場も完備しています。陸上貨物運送事業労働災害防止協会・滋賀県支部主催の運転技能講習を定期的で開催し、多くの企業様にご利用いただいています。また講師を派遣し、定期教育や技能の向上をサポートする体制も整えています。

■クレフィールフォークリフト 講習別利用者実績



※センコーでは、トレーナー制度(P24参照)が整い、運転技能研修を各支店・事業所で行っているため参加人数は減少しています。

### 特集3

# 廃棄物・リサイクルガバナンス構築への取り組み

## センコー独自のリサイクルガバナンスを実行

循環型社会の形成に向け、廃棄物排出量の削減に取り組むことが重要な企業の社会的責任の一つとなっています。センコーはこれに対し、経済産業省により提示された「排出事業者のための廃棄物・リサイクルガバナンスガイドライン」をもとに独自の廃棄物リサイクルガバナンス体制を構築し、廃棄物の徹底した分別とリサイクル資源化による廃棄物排出量の削減や適正処理の継続に取り組んでいます。

### モデル事業所から全社へ、取り組みを拡大

2007年度には、南関東地区にモデル事業所を設定し、ガバナンスの実行を進め、ガバナンス体制構築を進める手順を確立し、その他支店・事業所への展開に着手しました。

ガバナンス体制構築を進める手順は図の通りです。地域の責任者も含めた関係者全てへの取り組みの理解と認識を深める勉強会の実施から始め、業者選定、現場実態把握から分別方法検討・実施、実績管理に至る流れを各地域で順次行いました。2008年度も継続して取り組みをセンコー全体へ展開しています。



勉強会を実施



紙のリサイクル



廃棄物の分別を徹底

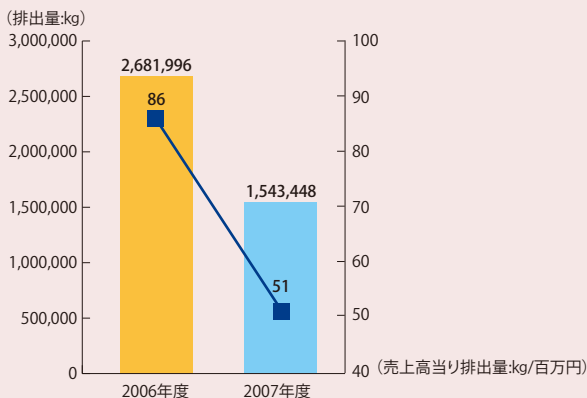
梱包用ビニールのリサイクル工場視察

勉強会の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>●対象：地域責任者、管理職、現場責任者、現場リーダー</li> <li>●内容：「事業系廃棄物とは」～「廃棄物管理表の管理・回収」</li> <li>●職場管理体制の整備</li> </ul>
地域情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> <li>●優良業者の選定～契約～管理会社としての関係構築（収集運搬・中間処理・リサイクル業者）</li> <li>※留意点：コンプライアンス面での展開</li> <li>●業者処理場・処分場の視察</li> </ul>
現場実態の調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>●廃棄物管理実態把握</li> <li>●排出品目・排出物量把握</li> <li>●リサイクル実態把握</li> </ul>
リサイクルの強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●リサイクル品目の検討</li> <li>●リサイクル品目の分別</li> </ul>
分別・保管	<ul style="list-style-type: none"> <li>●品目別分別方法の検討～実施</li> <li>●法を遵守した保管</li> <li>●8 m<sup>3</sup>コンテナの廃止</li> </ul>
収集運搬～処理	<ul style="list-style-type: none"> <li>●面の展開構築</li> <li>●埋立て処理の回避（2次リサイクル）</li> </ul>
廃棄物管理表（マニフェスト）の管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>●管理システムの統一</li> </ul>
月次実績の推移管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境データ管理</li> </ul>

### 廃棄物リサイクルモデル事業所で発生量を大幅削減

南関東地区のモデル事業所での取り組み結果として、分別を徹底しリサイクルを増大させ周辺事業所への展開も進めたことで、廃棄物として処理される量がモデル事業所を含む南関東の5つの支店では対前年比で約40%あまり削減することができました。

■南関東5支店廃棄物排出量推移



神奈川支店 大平敏男 職長

2007年6月に開催した第一回リサイクルガバナンス構築会議では、廃棄物処理法に適合した廃棄物の適正処理、リサイクル拡大による廃棄量の削減、資源の有効活用等について検討しました。支店ではこれまでゴミを分別することなく産廃コンテナに捨てていたため、まずこれを撤去することにし、従業員にも協力を促しました。一般廃棄物と産業廃棄物、その品目等により分別指定したにもかかわらず、当初はゴミが混在化するなど様々な問題も発生。しかし、品目別分別方法を周知し、リサイクルへの関心が高まるにつれ支店全体での協力を得られるようになり、ゴミ分別を推進したことで産廃処理費の大幅な削減もできました。

## 環境活動報告

## 環境基本方針

## 環境との調和と共生を目指して

物流企業が環境に与える影響は大きく、環境負荷低減への取り組みは責務であるとセンコーは考えています。2001年度より開始した「環境マスタープラン」においても、従業員への環境啓発活動(第Ⅰ期)から物流環境先進企業としての着実な実践(第Ⅱ期)、社外に環境活動領域を広げる第Ⅲ期へと、循環型社会の構築に向けて、段階的に深化・発展させた貢献活動を展開しています。

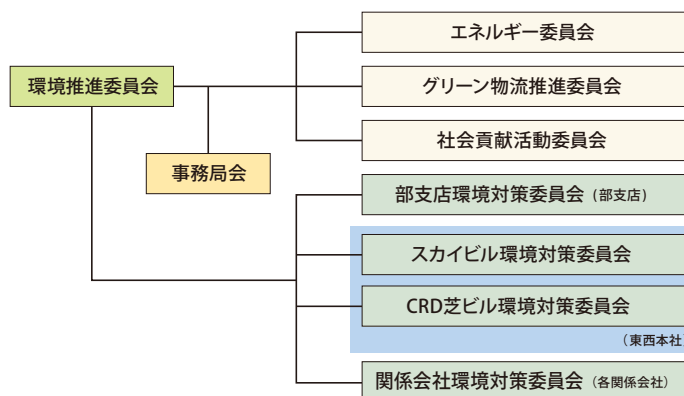
## 環境基本方針

環境理念	次世代へと継承していくべき地球が、豊かな自然環境に恵まれ続けるために、私たちはすべての事業活動を通じて、自主的かつ積極的に省エネルギー・省資源をはじめとする環境対策に配慮し、環境の保全及び継続的改善に取り組む。
行動指針	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地球環境に気を配る企業であること</li> <li>○ 環境保全性と経済性の同時達成を目指すこと</li> <li>○ 従業員一人ひとりが身近なことから、環境問題に主体的に取り組むこと</li> </ul>
環境方針	<p><b>基本姿勢</b></p> <p>私たちセンコーグループは、深刻化する地球環境問題を、当社のために働くすべての人が正しく理解し、地球資源の有効活用と資源循環に寄与する取り組みを推進する。</p> <p>また、物流の果たす役割認識を深め、環境に貢献する高度なロジスティクスシステムをあくなき創造性を発揮し、提案し続ける。</p> <p><b>基本方針</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境マネジメントシステムと環境活動の継続的な改善を推進し、環境汚染の予防に努める。</li> <li>2. 環境に適用される法規、条例、協定および同意するその他の要求事項を遵守する。</li> <li>3. 当社が行う事業活動が環境に与える影響の中で、以下の項目を重点テーマとして取り組む。             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 大気汚染防止対策および地球温暖化防止対策を積極的に推進する。</li> <li>(2) 廃棄物の適正管理・リサイクルの促進により排出量を削減する。</li> <li>(3) 環境に貢献する事業サービスを積極的に提案する。</li> <li>(4) 省資源、省エネルギー、グリーン購入を推進する。</li> </ol> </li> <li>4. この環境方針を達成するため、環境目的、目標を設定し、当社のために働くすべての人に周知し、理解と環境意識の向上をはかる。また、社外に環境方針を公開し、理解と協力を得る。</li> </ol> <p>－この環境方針は全従業員に周知し、社外の要求に応じ公表する－</p>

2006年10月制定

## 環境推進体制

グループ体となった環境活動を推進するための組織体制を整えています。その中核となるのが「環境推進委員会」で、環境改善課題を検討し、「エネルギー」「グリーン物流推進」「社会貢献活動」の各委員会ではそれに基づいた具体的施策を立案し、目標の達成に向けた取り組みを行っています。



## 環境マネジメントシステムの推進

環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001に準拠した「センコー環境マネジメントシステム(SEMS)」を構築し、展開しています。

ISO14001規格の2004年版への改訂にも対応し、新規格に合わせてマニュアルや基準書類を改訂、活動も移行しました。改訂規格審査による認証は、2006年3月の更新審査によって現在も継続されています。

## 環境活動報告

## センコーの環境目標と成果

## 第Ⅲ期「環境マスタープラン」

環境マスタープランの第Ⅰ期は「従業員が環境問題への関心を持ち得ることから取り組む」、第Ⅱ期では「環境活動を着実に前進させる」ことを目指した取り組みを実施。2007年度は第Ⅲ期の初年度にあたり、以下の考えのもと環境活動を進めています。

## 第Ⅲ期環境マスタープラン(2007～2009年度) 社外に環境活動の領域を広げていく

## ■基本的な考え方

持続可能社会を目指した環境対策への積極的な対応と、ロジスティクスの高度化による物流環境貢献企業を目指していく。

## ■施策

1. 資源生産性を高める活動
2. 法規制遵守と管理システムを充実させる活動
3. 積極的にマーケットに働きかけ競争力を高める活動

## ■環境目標

1. CO<sub>2</sub>排出量の5%削減
2. 廃棄物排出量の売上当り30%削減
3. 個別目標 ①自動車燃料:燃費3%削減 ②電力:売上当り使用量3%削減

## センコーの環境目標と成果

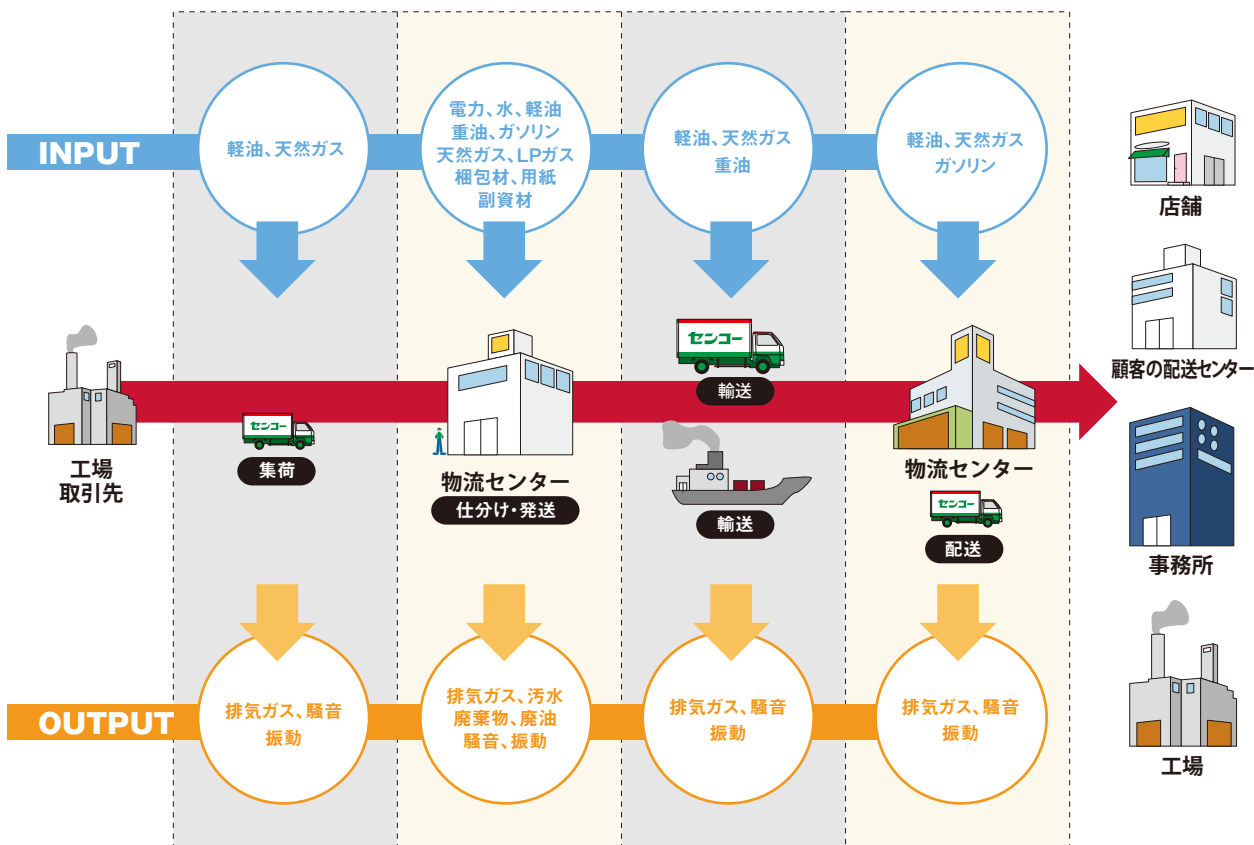
2007年度は第Ⅲ期環境マスタープランの初年度として年次計画を策定し、環境改善課題に取り組みました。

2007年度目的・目標		取組進捗・結果	
CO <sub>2</sub> 排出量	対前年2%削減	定量目標	・対前年3.6%増加 (新設設備電力、船舶2隻増加での燃料増による)
廃棄物排出量	対前年10%削減(単位当り)		・対前年35.1%減 (前年度での一時的廃棄増発生からの影響。分別リサイクルの推進効果)
自動車燃費	対前年1%向上		・対前年2.4%向上 (デジタコ導入などの効果)
電力使用量	対前年1%削減		・対前年14.9%増加 (新設大型物流拠点設備増加などの影響)
<b>1. 設備の低公害化</b>			
①低公害自動車導入	・4トン車以下在籍比率 10.3%	○天然ガス自動車の導入	・4トン車以下在籍比率 6.5%
②低公害リフト導入	・在籍比率 70.2%	○バッテリー車、LPガス車への転換	・在籍比率 64.4%
③省エネ型設備、機器の導入		○省燃費タイヤの効果テスト実施	・燃費改善は一定の効果が確認された ・耐用期間の短さ、価格差を考慮しても導入によるメリットが期待できると判断
<b>2. 環境負荷低減活動</b>			
①エコドライブの定着	・デジタコ装着と燃費把握	○デジタコを約70%の貨物自動車に装着	・新自動車管理システムが導入された
②廃棄物発生抑制	・廃棄物リサイクルガバナンス体制構築	○モデル事業所でのガバナンス体制構築	・分別徹底とリサイクルで大きく排出量削減
③省資源活動推進	・事務所温度管理徹底(26～28℃) ・夏期制服へTシャツ型導入 ・倉庫へ高効率照明機器導入	・大阪本社ビルで大きな電力使用量の削減効果 ・Tシャツ型制服の導入開始(2007年6月より) ・4事業所で省エネ型照明へ切り替え実施(奈良、倉敷、大分、宮崎の各倉庫棟)	
<b>3. 環境貢献活動</b>			
①顧客への貢献	・グリーン物流の推進 ・グリーン物流社内啓発活動の推進	・助成金を活用した物流システム省エネ化(モーダルシフト、拠点集約) ・営業部、部支店長への説明会開催	
②社会貢献活動の推進	・子ども交通安全教室の開催 ・緑化の推進 ・事業所周辺の美化	・子ども交通安全教室を3支店で開催(三重、倉敷、延岡) ・西神戸PDセンター緑化増強 ・小倉営業所フェンス緑化実施 ・各事業所で周辺清掃、美化を実施	
<b>4. 環境コミュニケーション</b>			
①環境活動情報の公表	・環境・安全報告書2007発行	・10月に発行	
<b>5. 環境マネジメントシステム</b>			
①継続的環境改善活動の仕組みづくり		・小牧支店大口PDセンターがISO14001認証取得 ・グリーン経営認証の取得活動に着手	



# 環境影響の全体像

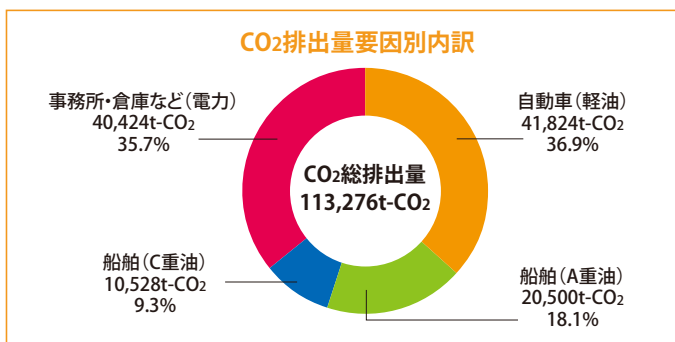
センコーは、事業活動に伴い発生する環境負荷を可能な限り把握するために、資源やエネルギーの使用量[インプット]と、CO<sub>2</sub>や廃棄物の発生量[アウトプット]を数値化し、事業活動全体を通しての環境負荷の抑制と削減に努めています。



INPUT	
軽油	14,131 kL
重油	11,097 kL
電力	72,836,359 kWh

OUTPUT	
CO <sub>2</sub> 排出量	113,276 t-CO <sub>2</sub>

CO<sub>2</sub>排出係数は、2006年3月29日に改訂された地球温暖化対策の推進に関する法律施行令による。



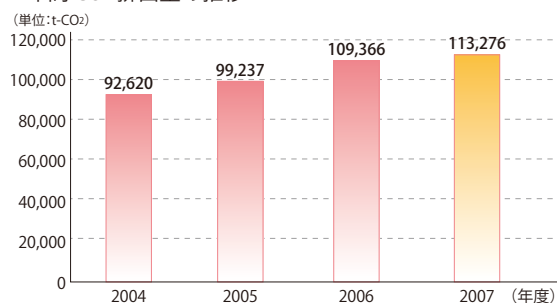
## CO<sub>2</sub>排出状況について

センコーは、事業活動で使用している自動車や船舶、事業所、倉庫などからの温室効果ガス(CO<sub>2</sub>)排出量の把握に努めています。

2007年度に把握したCO<sub>2</sub>排出量は、113,276t-CO<sub>2</sub>で、対前年度約3,900t-CO<sub>2</sub>増加しました。

主な原因は、新設倉庫の稼働に伴う電力使用量の増加と社有船舶数の増加によるもので(約6,200t-CO<sub>2</sub>対前年度増加)、自動車などの燃料の削減による減少分(約2,300t-CO<sub>2</sub>対前年減少)を大きく上回った結果増加したものです。

■年間 CO<sub>2</sub> 排出量の推移



## 環境活動報告

## 地球温暖化防止への取り組み

CO<sub>2</sub>排出量削減への取り組み

## ■ デジタル式運行記録計の導入を推進

センコーでは、燃料消費やCO<sub>2</sub>排出量を抑制する省エネ運転方法—エコドライブを推進しています。2007年度はタコグラフ（運行記録計）のデジタル化を推進した結果、約7割の車両への装着が完了しました。今後も引き続き、燃料消費やアイドリング状況、速度などの運転データを記録、蓄積できる「デジタル式運行記録計（デジタコ）」への転換を進めます。

あわせて運行管理、エコドライブ管理に寄与するデジタコデータを活用した新たな自動車管理システムを導入し、2008年度から本格的に運用を開始しています。デジタコから得られる様々なデータを活用し、エコドライブを徹底し、より一層の燃費向上に取り組んでいきます。



デジタコ車載機本体



デジタコハンディターミナル

## ■ 高効率照明の導入

省エネを推進する取り組みとして、事業所の倉庫で高効率・省エネ型の照明機器への転換を実施しました。2007年4月より導入した4事業所（奈良、倉敷、大分、宮崎の各倉庫棟）では、原油換算での年間省エネルギー量が63.9kL+α、年間の電気代削減額計700万円という省エネ効果が現れています。

今後もコストパフォーマンスを考慮し、省エネ型照明機器への交換で効果が見込める拠点について導入を図っていきます。

## ■ 省燃費タイヤ導入テストの実施

2007年度において、省燃費タイヤ（エコタイヤ）の効果を確認するため、複数の事務所の車両で装着テストを実施しました。エコタイヤを使用した燃費と汎用タイヤ時の燃費を比較した結果、高速道路の走行が一定以上ある条件下では省燃費効果が確認できました。

今後は、効果の見込める高速道路使用率などの条件を設定し、エコタイヤの装着を進める考えです。2008年度は、各自動車事業所で一定基準に該当する車両の一部に装着し効果の測定・記録をしていきます。

## ■ 低公害車を積極的に導入

事業所の「トラック」車種構成が小型から大型へシフトしていることから、低公害車化の対象車種台数は減少していますが、貨物用自動車（4t以下）では9台をCNG車やハイブリッド車など低公害車に転換し、2008年度期首のグループ全体の在籍数は37台になりました。2008年度末は在籍60台を目標に、順次計画的に低公害車へ代替を図っていきます。

「フォークリフト」についても、NOxの排出量低減につながるバッテリー式の低公害車を導入し、2007年度末在籍比率は83.0%を達成しています。また「業務連絡などに使用する乗用車」については、セダンタイプの車種では一部特殊な用途の車両を除くと大半がハイブリッド車への転換が進みました。

## 低公害車 在籍数及び導入計画（トラック）

		低公害車		
		センコー	関係会社	合計
2007年度	期首在籍	7	21	28
	対前年度末増減	2	7	9
2008年度	期首在籍	9	28	37
	導入計画	5	18	23
	期末在籍	14	46	60



CNG車



低公害フォークリフト



業務連絡パトロール車として導入されたハイブリッド車

## ■ 事業所の緑化

身近なところから取り組める地球温暖化防止活動として、事業所の緑化を進めています。2007年度は、車両系事務所（小倉営業所）及び新規自社物件（西神戸PDセンター）の緑化を検討実施しました。CO<sub>2</sub>排出企業として今後も、環境負荷低減のために年次計画を作成して継続的に取り組んでいきます。



西神戸PDセンターの植樹風景



小倉営業所のシンボルツリー

# 物流効率化への取り組み

## グリーン物流パートナーシップへの取り組み

CO<sub>2</sub>等の温室効果ガス排出量の抑制・削減を図ることを目的に、荷主企業と物流事業者の協働・連携による取り組みを支援しているのが、「グリーン物流パートナーシップ会議」です。センコーは、経済産業省、国土交通省等が推進するこの会議にも参加し、荷主様と共に知恵を出し合い協働することで、より高いレベルの物流効率化・環境保全活動を推し進めています。

みんなで地球にやさしい物流を



グリーン物流パートナーシップ

## 旭有機材工業株式会社様の倉庫拠点集約事例

旭有機材工業株式会社様の樹脂成型品を、当社倉庫(1,551坪)の他、延岡市内の外部倉庫(9箇所)で分散保管していましたが、倉庫間の持ちちが多々発生し非効率となっていました。この状況を改善するために、成型品を集約保管できる専用倉庫(3,120坪)を工場隣接地に新設することをセンコーと検討され、2005年の計画決定を受け、センコーで新倉庫を建設することになりました。

新倉庫に一元管理することにより、工場～センコー倉庫のトラック輸送距離の短縮、倉庫～市内倉庫のトラック出荷台数の削減、またモーダルシフト化への改善など物流の効率化が見込めます。

輸送の効率化と環境負荷の低減が図れることから、センコーでは「荷主企業と物流事業者のパートナーシップにより実施される物流の改善方策を通じて、排出されるCO<sub>2</sub>の削減効果が明確に見込まれるものであること」との条件を持つ「グリーン物流パートナーシップ普及事業」の設備導入の助成制度利用を計画し、旭有機材工業株式会社様などと共同で応募しました。その結果、2007年8月に助成実施機関のNEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)の交付が決定し、2008年1月から事業を始動させています。

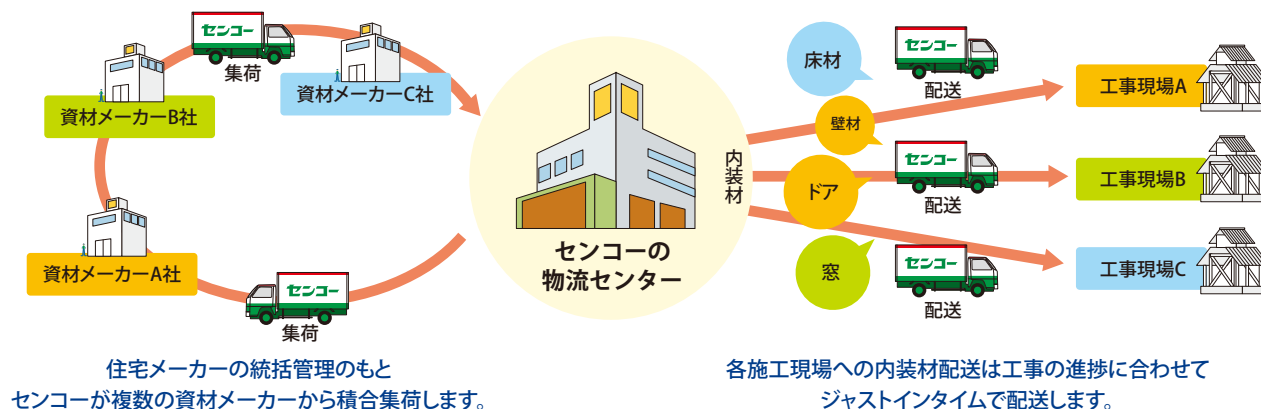
この取り組みにより、現状比較で98%程度のエネルギー量の削減が見込める予定です。



完成した新倉庫

## グリーン調達物流への参画

センコーは、住宅関連資材の物流効率化にも貢献しています。大手住宅メーカー様への資材納入に関しては、従来は資材メーカー様がそれぞれの住宅メーカー様毎にトラックを手配・配送していましたが、住宅メーカー様の統括管理のもと一括してセンコーが担い、個別で手配していたトラックもセンコーの物流センターを利用し、別々の住宅メーカー様が納入していた部材を共同で積み合わせすることで無駄なトラックを削減。CO<sub>2</sub>排出量を削減することにより、環境負荷の低減を図っています。



## 環境活動報告

## 環境関連法令・規制への対応

## 改正省エネ法への対応

改正省エネ法は正式には「エネルギーの使用の合理化に関する法律」と呼ばれ、1979年に産業の省エネルギー化を進めるため制定されたものです。その後何度も改正によりその対象が拡大されてきています。

そうした中、2006年4月の法改正により、貨物の輸送を年間3,000万トンキロ以上行う荷主と、一定規模以上の輸送能力を有する輸送事業者も対象とされることになり、中長期の省エネ計画の策定、エネルギー使用量等について年次の定期報告が義務付けられました。この改正は、京都議定書における日本の目標達成に向け、日本の排出量全体の約2割を占める「運輸部門」への取り組みを強化するために施行されたものです。

センコーでは、法令改正に伴う対応を以下のように執り行っています。

## ■ 物流業者への法的要求事項とセンコーの対応

センコーは一定規模以上の輸送能力を有する輸送事業者（特定輸送事業者）に該当し、その中でも、事業用自動車の貨物輸送の基準から「特定貨物輸送事業者」と指定されました。特定貨物輸送事業者に求められている事項、及び当社の対応は次の通りです。

- |                                     |
|-------------------------------------|
| (1) 取り組むべき省エネ対策事項抜粋                 |
| ① 低燃費車両等の導入                         |
| ② 運転者教育、デジタル式運行記録計の活用によるエコドライブの推進   |
| ③ 共同輸配送の実施等による積載率向上、帰り荷の確保          |
| ④ 車両情報システムの利用等による車両運用で空車走行の縮減       |
| (2) 届出・報告事項                         |
| ① 特定輸送事業者の指定に係る輸送能力の状況に関する届出（初年度のみ） |
| ② 特定輸送事業者の中長期省エネ計画（毎年）              |
| ③ 特定輸送事業者の定期報告（毎年）                  |
| ※その他「定期報告事項」が設定されています。              |

## ■ 荷主への情報提供状況

一定量以上の貨物の輸送を行う荷主（特定荷主）については、貨物の輸送に係る省エネ計画策定と年次の定期報告が義務付けられ、輸送に係るエネルギー使用量の把握を求められています。この把握に際し、より正確なエネルギー使用量推計のために、輸送事業者へデータ提供を要請される場合には、センコーとしては、データ内容や頻度から可能な限りにおいて、情報提供はさせていただきます。

改正省エネ法で求められる措置事項	当社の対応策
1. 中長期的に年平均1%以上のエネルギー使用原単位低減	・下記の諸対策事項の実施による
2. 取組方針の作成及び効果等の把握	・省エネ施策、方針、目標の年次策定、実績把握、見直し ・エネルギー委員会の設置、課題検討 ・社内報等による従業員意識啓発
3. 性能が優れている輸送用機械器具の使用	◎低公害車の導入 ・2トン車以下はCNGまたはハイブリッド車等低公害車の導入を原則とする。 ◎省燃費機器の検討 ・省燃費タイヤ等の導入推進
4. 輸送用機械器具のエネルギーの使用の合理化に資する運転または操縦	◎エコドライブの推進 ① デジタコ導入による指導の強化 ② エコドライブ訓練・教育の実施 ③ 社内報等による従業員意識啓発
5. 輸送能力の高い輸送用機械器具の使用 大型化及びトレーラー化の推進	◎大型化の荷主への提案
6. 輸送用機械器具の輸送能力の効率的な活用	◎輸送効率向上の推進 ・住宅部材デポ運営による先送り等
7. その他エネルギーの使用の合理化に資する事項	◎荷主との連携：グリーン物流パートナーシップの推進 ◎自営転換の営業活動、荷主への提案 ◎輸送効率向上を考えた拠点整備 ・延岡PDセンターなど拠点集約による配送頻度削減

## 自動車NOx・PM法及び関連法規、条例等への対応

大気環境の改善を図るため、大阪府では、自動車NOx・PM法の排ガスの基準を満たさないトラック・バス等の対策地域への流入を制限する運行規制を2009年1月より実施します。対象となる37市町を発着地として対象自動車を運行する者は、車種規制適合車等を使用する必要があり、大阪府が交付する適合車等標章（ステッカー）の表示が義務付けられます。センコーグループでは法令・条例の改正に対応するために、荷主・行政等と連携した取り組みを進めています。



# 環境認証取得の状況

## ISO14001認証取得への取り組み

センコーでは、環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」認証取得に向けた取り組みを進めています。2007年度に申請を行った小牧支店の大口PDセンターで新たに認証を取得しました。今後も各地域で、認証範囲の拡大を図っていきます。

■ ISO14001認証範囲の事業所名

2008年4月6日現在

認証範囲事業所名
○名古屋主管支店(中部営業部を含む)
名古屋営業所
金沢営業所
○小牧支店(小牧営業所を含む)
<b>大口PDセンター※</b>
○静岡東支店(富士車輛営業所を含む)
新富士PDセンター
西富士物流センター
○三重支店(三重輸送センターを含む)
○三協貨物株式会社平田支店



ISO14001認証登録証

※2008年4月新たに認証取得

## ■ 物流業者への法的要求事項と当社の対応

ISO14001認証取得の事業所では、環境活動の実施状況の点検のため、資格を持った社内の監査員による内部環境監査を1年に1回、外部審査機関(JQA)の審査員による審査を年に1回受けています。内部監査や外部審査で指摘を受けた事項については、真摯に受け止め、速やかに改善を図っています。

2008年3月に実施された外部審査機関(JQA)による定期審査においては、結果2件の指摘事項があり、いずれについても所定の期間内に是正を図りました。また「改善の余地がある」とされた事項についても、各事業所で改善に取り組んでいます。



外部審査機関による書類審査



小牧支店での外部審査機関による施設見学

## ■ グリーン経営認証の推進

「グリーン経営認証制度」とは、国土交通省が所管している「交通エコロジー・モビリティ財団」が推進する、地球環境に優しい活動を行っている企業の事業所を認証する制度です。具体的な環境保全項目を明らかにし、一定レベル以上の取り組みを行っている事業者を審査の上認証して登録する仕組みで、事業所毎に環境目標を設定し評価を受けることができます。

センコーグループでは、この制度の対象とされている「自動車事業所」と「倉庫事業所」の全社的認証取得を目指し、2007年度に準備を進めました。2008年度以降に順次各事業所の認証の準備と申請を行って、認証取得を全社的に拡大していきます。



グリーン認証を取得した中四国ロジスティクス(株) 四国冷凍運輸倉庫事業部高松配送センター

# 安全活動報告

## 安全活動方針

### 全てに優先する「安全」の維持に向けて

労働安全衛生確保への取り組みとして、センコーグループは「重大事故ゼロ」を目標に掲げた活動を進めています。グループ全体の安全性をより高めるため、2006年10月に新たな「安全方針」「安全向上のための6つの重点施策」を策定し、安全活動を推進する「安全管理責任体制」を構築しました。また貨物自動車運送事業法改正に合わせ、安全に関わる情報をホームページで公開しています。

<http://www.senko.co.jp/environment/transport/>

#### 安全理念

「人間尊重」と「全てに優先する安全」の精神のもと、『完全0災職場を確保』を実現する。

1. あらゆる事故・災害は防止することができ、また防止しなければならない。
2. 管理者は従業員の安全に対する責任を負う。
3. 全従業員が「あらゆる事故をなくするのだ」ということを信条にしなければならない。
4. 安全は高品質と高生産性を確保する。

#### 安全方針

##### 基本姿勢

- 私たちセンコーグループは、物流事業の社会的使命を深く認識し、事業活動における安全確保が事業経営の根幹であることを、当社のために働くすべての人が正しく理解し、安全の向上に寄与する取り組みを推進する。
- 経営トップは、現場からトップまでが一体となって事業活動における安全の確保と安全性の向上に努めるよう積極的に主導する。

##### 行動指針

1. 安全マネジメントシステムと安全衛生活動の継続的な改善を推進し、事故・災害防止と安全リスクの低減に努める。
2. 安全衛生に適用される法規、条例、協定および同意するその他の要求事項を遵守する。
3. 安全・衛生活動に関する情報について積極的に公表する。
4. この安全方針を達成するため、目的、目標を設定し、当社のために働くすべての人に周知し、理解と安全意識の向上をはかる。また、社外に安全方針を公開し、理解と協力を得る。

#### 安全向上のための6つの重点施策

1. 事業における安全の確保が最も重要であるという認識を徹底し、関係法令及び安全管理規程に定められた事項を遵守する。
2. 安全に関する費用支出及び投資を積極的かつ効果的に行うよう努める。
3. 安全に関する内部監査を行い、必要な是正措置又は予防措置を講じる。
4. 安全に関する情報の連絡体制を確立し、社内において必要な情報を伝達、共有する。
5. 安全に関する教育及び研修に関する具体的な計画を作成し、これを確実に実施する。
6. センコーグループ全体の安全性が向上するように、一丸となって安全確保に努める。

# 安全目標

センコーは、「安全を全てに優先させる」考えを徹底し、グループをあげた危険予知活動を展開して、不安全状態・不安全行動を排除しリスク低減を図っています。2007年度は、重大事故については2006年度と同様に「ゼロ」を達成し、交通事故についても目標を達成しました。

また全社で「重大リスク」を抽出して、全社員に周知しました。事業所で抽出した「重大リスク」については、319項目でリスクを低減するなど、取り組みの成果を確認できました。

## グループ全体の安全目標

- 重大事故ゼロ
- 重大災害ゼロ
- 車両事故、労働災害とも、2005年度比15%削減

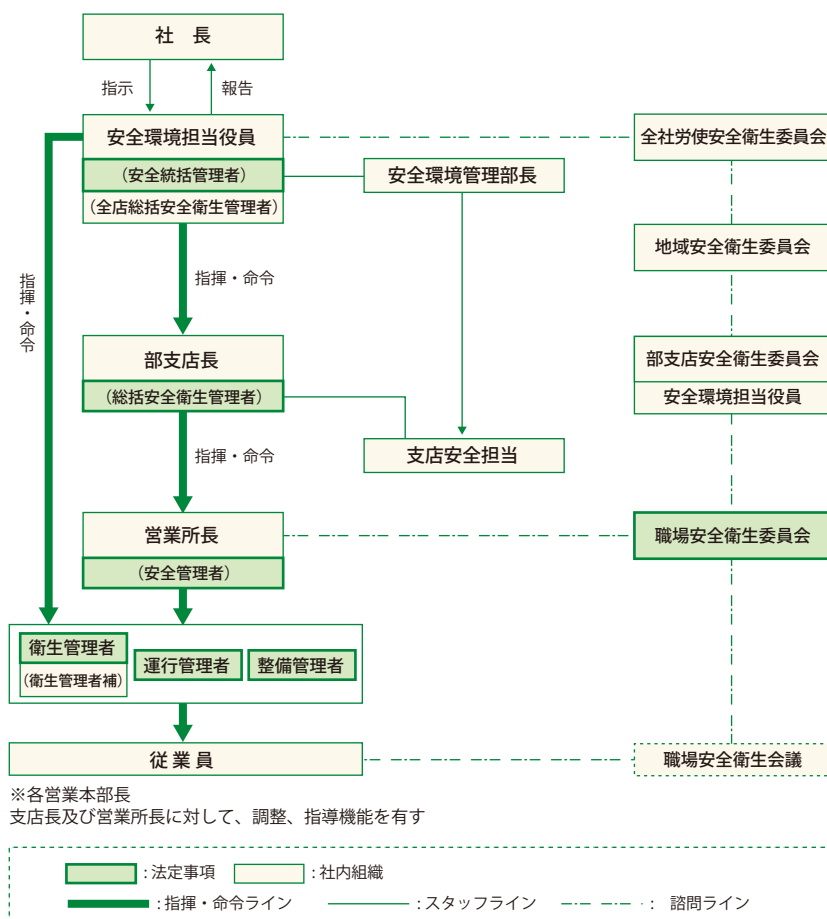
## 達成状況

	2005年度		2006年度		2007年度	
	実績	目標	実績	目標	実績	目標
重大事故	0	0	0	0	0	0
交通事故	28	26	26	25	25	25
	—	2005年度比 ▲5%		2005年度比 ▲10%		

## 独自の「安全マネジメントシステム」を構築

センコーでは、リスクマネジメントの考え方を取り入れた、独自の「センコー安全マネジメントシステム」を構築し、安全水準の向上を図っています。このシステムでは、現場からリスクや課題を抽出し、それを組織のトップによるシステムの再構築、さらには日常の安全活動の改善へとつなげる仕組みを実現しています。トップダウンとボトムアップを融合させたマネジメントシステムによって、より現実に即した安全活動と、継続的な安全水準の向上を可能にしています。

## 安全維持組織体制



# 安全活動報告

## 安全管理への取り組み

### 日常の安全活動の取り組み

日常的な点検や安全活動の着実な積み重ねが事故防止につながると考え、様々な安全管理を実践しています。

またデライト(昼間点灯)活動や「HHK(ヒヤリ・ハット・気がかり)」活動、「こだわり運転3・5・5運動」(前車から3秒以上の車間を取る、停止線の5cm手前で停車、前車と5m以上の間隔を空けて停車する)など、潜在的リスクの低減を図るセンコー独自の安全活動を継続しています。

#### ■KY(危険予知)活動の強化

センコーは、KY活動により危険の芽を発見できる、危険感受性の高い従業員を育成しています。その手段の一つとして、ドライバー及び関係者全員を対象に、KYシートを使用したKYトレーニングを日々の運行前・作業前に実施し、その日の行動に活かしています。



KYトレーニング

センコー流呼称運転項目	
運転場面	呼称項目
① 出発	後方確認(バック)、前方確認(前車)、前方確認
② 加速	加速確認、加速済み確認、進行確認
③ 減速	減速確認、進行確認
④ 停止	後方確認(バック)、前方確認(前車)
⑤ 立ち上がり	周囲の確認、進行確認
⑥ 急停車	急停車確認
⑦ 急発進	急発進確認
⑧ 急減速	急減速確認
⑨ 急停止	急停止確認
⑩ 急発進	急発進確認
⑪ 急減速	急減速確認
⑫ 急停止	急停止確認
⑬ 急発進	急発進確認
⑭ 急減速	急減速確認
⑮ 急停止	急停止確認
⑯ 急発進	急発進確認
⑰ 急減速	急減速確認
⑱ 急停止	急停止確認
⑳ 急発進	急発進確認
㉑ 急減速	急減速確認
㉒ 急停止	急停止確認
㉓ 急発進	急発進確認
㉔ 急減速	急減速確認
㉕ 急停止	急停止確認
㉖ 急発進	急発進確認
㉗ 急減速	急減速確認
㉘ 急停止	急停止確認
㉙ 急発進	急発進確認
㉚ 急減速	急減速確認
㉛ 急停止	急停止確認
㉜ 急発進	急発進確認
㉝ 急減速	急減速確認
㉞ 急停止	急停止確認
㉟ 急発進	急発進確認
㊱ 急減速	急減速確認
㊲ 急停止	急停止確認
㊳ 急発進	急発進確認
㊴ 急減速	急減速確認
㊵ 急停止	急停止確認
㊶ 急発進	急発進確認
㊷ 急減速	急減速確認
㊸ 急停止	急停止確認
㊹ 急発進	急発進確認
㊺ 急減速	急減速確認
㊻ 急停止	急停止確認
㊼ 急発進	急発進確認
㊽ 急減速	急減速確認
㊾ 急停止	急停止確認
㊿ 急発進	急発進確認



安全活動啓発ポスター

#### ■朝礼時の健康点検

就業前のドライバーの体調チェックは、事故を未然に防ぐためには不可欠です。ドライバーの健康を維持し安全業務を遂行するため、各事業所で毎日の朝礼時に、血圧測定、アルコールチェッカーでのアルコール濃度測定、腰痛防止のためのストレッチ体操を行っています。



アルコールチェッカーでのアルコール濃度測定



腰痛防止のためのストレッチ体操

### 安全関連法令の遵守対応

センコーは、「事業における安全の確保が最も重要である」という認識を徹底し、関係法令及び安全管理規程に定められた事項を遵守することを重点施策の一つに掲げ、安全向上に努めています。

#### ■立会点呼の100%実施による安全確保

運行管理者をはじめとして、運行管理補助者を活用し、立会点呼の100%実施に取り組んでいます。運行管理者や運行管理補助者立ち会いのもと、出発時の健康チェック・運行指示、帰着時の結果報告を執り行うなど、法令を遵守した安全管理を実施しています。



運行管理者による立ち会い点呼



# 充実の安全教育

## 「強い現場」・「卓越した現場」をつくる人材教育体制

センコーでは、自ら革新していく「強い現場」、そこから新しい価値を創造できる「卓越した現場」をつくることのできる人材の育成に力を注いでいます。

2008年度は全ての研修に、改善・革新をテーマとしたカリキュラムを導入し、各地域の現場に革新をもたらすリーダーの養成を目指します。また教育対象を協会社や派遣・パート社員にまで広げ、センコー流を徹底させます。

### ■ 新人教育システムの構築

現場を担う“プロ”の人材を育成するために、新人教育においては、2007年4月から、トラックドライバー及びフォークリフトオペレーターを対象とした「乗務認定制度」の運用を開始しました。この「乗務認定制度」では、プロの基礎となる技能を身につける教育課程の中間と最終段階に認定評価を受けることが義務づけられ、2段階の認定評価を経て初めて、プロとして独り立ちすることが認められます。

これらの評価は、各地域に配置された安全運転トレーナーまたはリフト技能トレーナーにより行われます。

#### ■ 新人教育システムの流れ (ドライバー) (オペレーター)



#### 新人ドライバー VOICE

北海道RDCイオン配送センター  
池田 重樹 社員

ドライバーとして入社し、安全運転トレーナーより、センコー流の基礎技能習得、安全運転、安全作業をして社員としてのマナーまで厳しく指導していただき乗務認定をいただきました。センコーは、安全については全てにわたり厳しいですが、その分、安心して働ける環境が整っている会社だと感じ満足しています。今後も日々、安全運転を心がけ、無事故でがんばっていきたくと思っています。

### ■ 業態別技能訓練の実施

センコーは、業態別リーダー育成に向けた教育訓練への取り組みを拡充しています。住宅物流では高い技術と知識さらに指導力を備えたCDリーダーを養成、また潤滑油物流のシャトルリーダー養成訓練では、潤滑油輸送における安全運転、ドラム缶、ペール缶の固縛、養生、荷役に関する技術を習得し、輸送品質の向上に努めています。

2007年度は住宅物流で20名のCDリーダー、潤滑油物流においては14名のリーダーを育成しました。



潤滑油訓練風景

### ■ トレーナー制度の採用

センコーでは、OFF/JTで学んだセンコー流基礎技能を、各支店や職場の現場で実践指導する地域リーダー(トレーナー)を支店毎に任命し、センコー流の定着化及び現場力の強化を図っています。

「センコー流」とは、あいさつ、指差呼称の仕方から車両点検・整備、運転・操作方法まで、40以上の項目に厳しい評価基準を設けた行動規範・技術基準で、センコーの安全性向上・人材教育の指針となるものです。トレーナーはその指導者として、センコー流を前進させる役割を担います。

2008年4月1日現在、36部支店に安全運転トレーナー31名、リフト技能トレーナー42名、また関係会社28社では安全運転トレーナー18名、リフト技能トレーナー1名が配属されています。



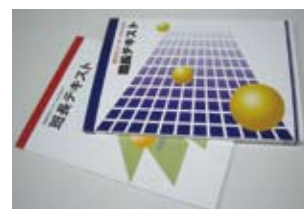
#### 2007年度地区訓練開催状況

	計画	実績	実施率
ドライバー			
開催(回数)	210	141	67%
受講(人員)	2,241	1,072	48%
オペレーター			
開催(回数)	267	116	43%
受講(人員)	2,345	1,119	48%

### ■ 「職長テキスト」を刷新

2007年3月に発行した班長テキストに続き、「新世代リーダーのための職長テキスト」が完成しました。

昭和46年に発刊し改訂を加えた「職長の基本」、2006年度の訓練・教育システム構築PTで作り上げた「職長・班長の職務」を基礎とし、それに現在行っている研修カリキュラムを加えた最新の教育内容となっています。現場リーダーへの教育内容を明確にし、また「卓越した現場の実現」をサポートするツールとして、今後は3年毎に更新を行い有効活用していきます。



## 安全活動報告

## 安全活動の評価・達成状況

## 「外部」からの評価・表彰

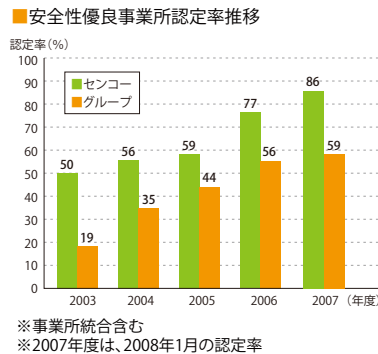
センコーの安全活動は、2007年11月に国土交通省の安全評価を受けるなど高い評価をいただいています。運転技術・技能の向上を目指す外部コンテスト等にも積極的に参加。安全を守り、社会から評価される取り組みに今後も力を注いでいく考えです。

## ■「安全性優良事業所」の認定取得

センコーは、全事業所の「安全性優良事業所認定」取得を目指しています。安全性優良事業所とは、(社)全日本トラック協会(国土交通省指定)が事業者の「安全性に対する法令の遵守状況」、「事故や違反の状況」、「安全性に関する取り組みの積極性」において、評価基準に基づいて点数化し認定するもので、センコーでは2003年度から取り組みを開始。2008年1月現在、44事業所及び関係会社19事業所が認定を受け、センコーで86%、グループ全体で59%の事業所が認定を取得しています。



認定証



## ■社外技能コンテストに参加

(社)全日本トラック協会が主催する「全国トラックドライバーコンテスト」にも、毎年参加しています。2007年の第39回大会では、各地域大会を勝ち抜いたセンコーのドライバー11名が出場し知識や技能を競いました。

また、陸上貨物運送事業労働災害防止協会主催の「全国フォークリフト運転競技大会」に1名出場しました。



全国トラックドライバーコンテスト



全国フォークリフト運転競技大会

## ■外部団体・お客様からも高い評価

## 支店・事業所表彰

■千葉支店 倉庫センター姉崎グループ(住友化学様「物流品質善行」表彰) ■静岡東支店 エレクトロニクス営業所・ケミカル営業所(旭化成富士取引先安全衛生協議会総会「優良取引先」表彰) ■広島支店 徳山営業所(株)プライムポリマー様「容器回収優秀貢献賞」 ■大阪主管支店 寝屋川IPDセンター(リンナイ様「2007年度物流品質第1位」優秀賞) ■延岡支店 愛宕営業所(旭化成ケミカルズ様「2006年度サララテックス品質クレームゼロ」を達成し表彰) ■延岡支店 車両営業所 ダンプ担当(旭化成ケミカルズ様 台風4号接近時の被害早期処置に対し感謝状) ■南九州センコー(株)(熊本県産業安全衛生大会「熊本労働局長優良賞」) ■静岡東支店 場内物流センター感光材担当チーム(旭化成ケミカルズ様 品質向上の取り組みに対し「安全功労賞」) ■小牧支店(第43回全国陸災防大会「安全衛生表彰・優良賞」)他

## 個人表彰

■山口支店 山口ハウス営業所 小野 竜男(社)全日本トラック協会優秀運転者顕章で「金十字章」受賞) ■静岡東支店 富士車両営業所 桜井 高訓(静岡県交通安全協会会長表彰) ■阪神支店 尼崎センター 森 温夫(製品の数量間違いを発見してトラブルを未然に防ぎ、旭化成ケミカルズ様より「安全功労賞」) ■延岡支店 恒富営業所 内越 久美雄(揚炭設備のトラブルを未然に防ぎ、旭化成ケミカルズ様より「防災賞」) ■延岡支店 東海営業所 村田 俊澄、野間 啓子、車両営業所 宮田 福美(安全品質活動への貢献に対し、旭化成ジオテック様より感謝状) ■神奈川支店 川崎営業所 斎藤 尚孝(軽量ベール製品混入を発見し、旭化成ケミカルズ様より品質防災賞) ■南大阪支店 泉北第2PDセンター 大石橋 賢、大阪センコー運輸整備(株) 吉井 啓之(濡損によるクレームを未然に防ぎ、株)プライムポリマー様から表彰)他



## TOPICS

(社)全日本トラック協会より、三重支店 三重輸送センターの山田英明さんが、30年以上ドライバーとして勤務し成績優秀であったため表彰されました。

## 「社内」での技術・安全表彰

センコーでは、各部支店、関連会社を対象に様々な表彰を行っています。大会への参加や表彰を通して、運輸業のプロとしての安全・品質に対する意識、技能の向上を目指すとともに、ドライバー及びオペレーター一人ひとりのやる気の創出につなげています。

### ■「技能コンテスト全国大会」を開催

第3回「センコーグループ技能コンテスト全国大会」を、2008年6月14日(土)～15日(日)に開催しました。

競技は、道路運送車両法などで定められた法令に、独自の厳しい評価基準を加えた行動規範・技術基準「センコー流」を基本に行われ、今回大会にはドライバー部門43名、オペレーター部門40名の計83名が出場。日頃培われた技術を競い合いました。

### 競技内容

#### ドライバー部門

- ①点検競技
- ②知識テスト
- ③走行競技  
(法規走行、センコー流走行、車体感覚、後退競技)
- ④エコドライブ競技

#### オペレーター部門

- ①点検競技
- ②知識テスト
- ③走行競技
- ④荷役技術競技(検品、チェック、積み卸し作業)



技能コンテスト  
オペレーター部門(点検競技)

技能コンテスト  
オペレーター部門  
(リフト走行競技)



技能コンテスト  
ドライバー部門(走行競技)

技能コンテスト  
ドライバー部門(点検競技)



### ■無事故・無災害表彰

長年にわたり無事故・無災害を継続した個人、事業所を表彰しています。2008年4月及び7月には、無事故・無災害を合わせて9事業所・関連会社と、206名の個人を表彰しました。

#### 個人安全(無事故・無災害皆勤)表彰者

年数	無事故(人)	無災害(人)
35	2	2
30	0	0
25	4	3
20	11	13
15	27	39
10	29	29
5	11	11
3	2	23
合計	86	120

### ■「安全MVP」の表彰

センコーでは、1年間を通して最も優秀な安全活動を行った個人、グループを表彰しています。2007年度は、川崎営業所 油谷彰久社員、及び梁瀬友幸社員が「フォークリフトの人身加害事故再発防止活動の実施」により安全MVPに選ばれました。

#### VOICE



#### 安全MVP賞表彰者

川崎営業所 油谷彰久 社員  
梁瀬友幸 社員

お客様と密なコミュニケーションをとることにより、労働災害の再発防止策を立案し計画的に遂行することができました。

## TOPICS

### 啓発活動として、安全スローガンを募集

安全スローガンを、前年に引き続き全社で募集しました。その結果、2007年度は7003点の応募があり、社内で最優秀作1点、優秀作1点、佳作4点を選びました。応募件数は年々増加しており、安全に関する従業員の意識は向上を続けています。

#### 最優秀作

『決めた事 守る勇気と続ける力  
みんなで築こうゼロ災職場!』



## 社会性報告

## 働きやすい職場、豊かな地域社会を創造

## 快適な職場環境の創出

企業は「人」によって支えられています。従業員一人ひとりが健やかに心豊かに過ごせる快適な職場環境を創り出し、また良き企業市民として、事業を行う地域の方々の暮らしに貢献できる企業でありたいとセンコーは考えています。多様なステークホルダーとの関係を大切にしながら、社会をより豊かにする活動を、センコーはさらに発展させます。

## 「快適職場推進計画」の認定取得を継続

センコーは、従業員一人ひとりの健康と幸福を実現するために、快適な職場環境を整備し、心と体の健康を保持・増進する活動を行っています。

「快適職場推進計画」(中央労働災害防止協会)の認定取得に向けた継続的な取り組みは、その活動の一環です。2007年度は、札幌支店、三重支店、奈良支店などが新たに認定され、232事業所のうち現在231事業所が認定を取得しています。

「事業者が講ずべき快適な職場環境の形成のための措置に関する指針(快適職場指針)」(厚生労働省)に則ったこの認定を受けることは、労働安全衛生法の規定を守り、仕事による疲労やストレスを感じることの少ない快適な職場づくりを推進している証になります。



札幌第2PDセンター認定証

## 事業所内保育園の設置

子育て中の女性も安心して働ける職場環境を創るために、2006年4月に泉大津市の泉北第2PDセンターに「センコー泉北保育園」を設置しました。さらに2008年春には、浦和PDセンターと西神戸PDセンターに事業所内保育園を開設しています。

「保育園の送迎時間が短縮できる」「子供のそばで働けるので安心」と、利用している社員及びパート社員の方々にも好評で、このような環境整備を今後も継続していきます。



保育士が常駐する事業所内保育園

## カフェテリアの設置

センコーでは、従業員が快適に利用できる食堂やカフェテリアを設けています。

2007年11月には浦和PDセンターの厚生棟に「センコー浦和レストラン」を、また2008年3月には西神戸PDセンターに「レストランセンコーマリーン」を設置しました。職場内にあるため昼休みや休憩時間等に便利に利用でき、また栄養面にも配慮した豊富なメニューが揃っているので従業員にも好評です。



センコー浦和レストラン



## 健康管理活動の状況

### ■「健康推進室」を新設

近年、生活習慣病や心の病の増加が社会的な問題となり、心と体のケアが企業の重要な課題になっています。

従業員の健康管理、健康増進を図るため、センコーでは「健康推進室」を設置し、健康診断や健診後のフォロー体制の整備、心の健康づくり計画の策定、セミナー開催等を行っています。

また、2008年度からは「センコー健やか活動」を開始し、さらなる従業員の健康維持増進を目指しています。



センコー  
健やか活動ポスター

### ■SAS(睡眠時無呼吸症候群)スクリーニングの実施

睡眠時無呼吸症候群(Sleep Apnea Syndrome)の早期発見と治療を目的に、パルスオキシメーターによる検査を実施しています。関係会社を含む全ドライバー、オペレーター、事務系社員が対象となり、検査の結果SASの疑いがあるとされた者に対しては、医療機関による精密検査の受診を促しています。二次検診を受けない者は、乗務禁止とするなど厳密なルールを設け、健康の維持・管理を徹底しています。



パルスオキシメーター

### ■健康診断・メンタルヘルスチェックの実施

カウンセリング・研修を中心とした従業員支援プログラム「EAP(Employee Assistance Program)」を導入し、全従業員のメンタルヘルスチェックを行い、診断・分析結果を改善策の構築につなげています。

その他にも従業員とその家族を対象とした「個人カウンセリングセンター」を開設し、電話で相談できる体制も整えています。



メンタルヘルスチェックシートの記入

## 大阪「男女いきいき・元気宣言」に登録

大阪府の「男女いきいき・元気宣言」は、女性の能力の活用や仕事と家庭の両立支援など、男性も女性もいきいきと働くことのできる取り組みを進める企業を応援する制度です。

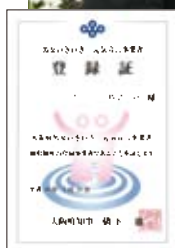
センコーはこの制度に登録し、様々な取り組みを進めています。2006年7月には「女性躍進推進委員会」を設け、女性が長く働くことができるよう段階的に諸制度を見直していくアクションプランを策定しました。勉強会や研修会の開催、相談窓口の設置など、女性の能力活用や働きやすい職場環境づくりの実現に向けた取り組みが進んでいます。

主要な  
取り組み

- ①仕事と家庭の両立支援
- ②女性の能力活用
- ③働きやすい職場づくり



「女性躍進推進委員会」の推進メンバー



登録証

# 社会性報告

## 地域での社会貢献活動

### 「こども交通安全教室」の開催

センコーは社会貢献活動の一環として、未来を担う子供達の安全を守る取り組みを行っています。クレフィール湖東で開催した「こども交通安全フェスタ」をかわきりに、2007年は全国3地域で「こども交通安全教室」を実施しました。

当日は、クレフィール湖東のインストラクターや各営業所の安全運転トレーナーが講師を務め、「右を見て、左を見て、さらに運転手の顔を見て確認して渡ると事故に遭わない」など、プロドライバーならではのアドバイスを提供。子供達とその保護者に参加いただき、交通ルールを守ることの大切さを伝えるとともに、信号の色の識別や横断歩道の安全な渡り方、車の死角についてなど、交通安全の知識を楽しく学んでいただきました。

事業で培った交通安全のノウハウを地元に戻元することで、一人でも多くの子供が危険を回避できることを願って、このような交通安全教育を全国的に展開して行きます。

#### 三重支店 [10月8日開催]



三重輸送センターにて実施：80名が参加

#### 倉敷支店 [10月27日開催]



水島物流センターにて実施：76名が参加

#### 延岡支店 [11月11日開催]



東九州自動車学校にて実施：53名が参加

### ■実施内容

- ぬりえ  
信号機の色をクレヨンでぬりえ
- 見えないところ、見えるところ  
保護者が車に乗り、車の死角を確認
- 横断歩道横断体験  
横断歩道の安全な渡り方を実践
- トラックの怖さを知ろう  
左折時の巻き込み危険を実演で表現
- トラックに乗ってみよう  
助手席に乗り  
トラックの高さやスピードを体験



### VOICE 参加者の声

日頃から交通安全に対しては実際の公道等で「危ない」と言い聞かせていますが、どのように危ないのか子供は理解できていませんでした。こども交通安全教室を通して実際に目で見て怖さを知ったようです。楽しく覚えられてかなり印象に残ったようで、家に帰っても横断歩道の渡り方、巻き込み防止の停止位置など話していました。実際に体験してみることが子供にとって一番いい勉強になると思いました。(Y・Oさん)

### 地域清掃活動を実施

センコーグループは、従業員一人ひとりが「良き企業市民」として、企業活動と生活の基盤である地域社会を豊かで暮らしやすいものとするために、地域や社会に役立つ活動を推進しています。

2007年度は、地域清掃活動として全国で延べ2万人を超える人員が参加して、本社は近畿の重要な水源である淀川河川敷の清掃、支店は事業所に隣接する公道の清掃を実施しました。

以降も本業を通じて地域や社会に貢献する活動を継続して実施して行きます。



淀川清掃活動



## クレフィール湖東での社会貢献活動

### ■福祉施設への協力

クレフィール湖東の土産物コーナーに並べられている木工製品。これは地域にある共同作業所「和楽寮」の皆さんが制作したものです。荷物を運ぶ台車、大浴場の椅子・スノコなども作っていただいておりますが、手作りならではの温かい風合いはお客様からも好評です。工芸材料は、クレフィール湖東・裏山の間伐材を無償で提供し活用していただくなど数年来の交流が続いています。

また、クレフィール湖東で分別したアルミ缶・スチール缶を彦根市のタンポポ作業所に、紙やダンボールを草津市の滋賀県社会就業振興センターに寄贈。活動資金にさせていただき活動も4年前より実施しています。



共同作業所「和楽寮」での制作風景



土産物コーナーで木工製品を受託販売

### ■「囲碁フェスティバル2007」の開催

クレフィール湖東の開設10周年を記念し、2006年に実施した「囲碁フェスティバル」を昨年も引き続き開催しました。梅沢由香里女流棋聖と中島美絵子初段を招き、プロ棋士と対局する「指導碁」など、小学生から86歳のお年寄りまで44名が参加。約100名の囲碁ファンが来場し楽しいひとときを過ごしました。地域の文化促進活動の一環として、今後も継続的に開催していく予定です。



対局を指導・解説する梅沢女流棋聖

### ■中学生・教職員の職場体験受け入れ

滋賀県教育委員会では、勤続5年目の小学校教員にインターンシップ体験をさせる取り組みを昨年よりスタートさせています。クレフィール湖東では、これまで地元中学生の職場体験の受け入れを続けてきましたが、今回初めて小学校教員のインターンシップ受け入れを行いました。

2007年7月の5日間、2名のインターン生は、ホテルマネジメントの基本となる「客室ベッドメイク」「レストラン接客」の業務を体験し、実際にお客様にサービスを提供しました。「教育現場とは異なる視点や価値観に触れることができた体験を、今後の教育現場で活かしていきたい」という感想をいただいています。



- 「たとえお客様が見ていない所であっても常に笑顔で明るく勤務することの大切さを学びました」  
(野洲市立祇王ぎおう小学校教諭)
- 「ホテル業も教師も、人と接する仕事であることは同じ。『思いやり』『挨拶』の大切さを強く感じました」  
(東近江市八日市南小学校教諭)

## ホームページでも広く情報を開示しています

センコーは、CSR活動の一環として、各種媒体を通じて社会に向けた情報開示及びコミュニケーションに努めています。センコーグループの事業活動、及びCSR活動についての情報は、ホームページでもご確認いただけます。

ホームページ <http://www.senko.co.jp>

「CSR報告書2008」についてのお問い合わせ先  
センコー株式会社 CSR推進部  
TEL:(06)6440-5190 FAX:(06)6440-5192





お問い合わせ先

**センコー株式会社 CSR推進部**

〒531-6113

大阪市北区大淀中1-1-30-1300 梅田スカイビルタワーウエスト13F

TEL.06-6440-5190 FAX.06-6440-5192

URL <http://www.senko.co.jp>

ECO-PULP



エコパルプ



この報告書は、環境への配慮のため、用紙には無塩素漂白のエコパルプを、また印刷には大豆油インキを使用しております。

2008年10月発行